

St. Luke's International University Repository

Report of the Comprehensive Practicum (Fundamental nursing) at the KAYOINO-BA Supported by Chuo City (Tokyo) During the COVID-19 Pandemic

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐居, 由美, Sakyo, Yumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016591

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

実践報告：コロナ禍における総合実習（基礎看護）

—中央区高齢者支援事業「通いの場」での学び—

佐居 由美

Report of the Comprehensive Practicum (Fundamental nursing) at the KAYOINO-BA Supported by Chuo City (Tokyo) During the COVID-19 Pandemic

Yumi SAKYO

〔Abstract〕

In the College of Nursing of St. Luke's International University, a comprehensive practicum (Fundamental nursing) is carried out in the first semester of the senior year. The learning objective is to consider the civic healthy needs and understand people-centered care (PCC). With the support of Senior Citizens Section of Chuo City (Tokyo), the fieldwork was carried out at the KAYOINO-BA, that is a salon for the elderly people who live alone and tend to isolate themselves. Chuo City funds administrators who manage the KAYOINO-BA. In June 2021, due to the COVID-19 pandemic, this practicum was conducted both online and in-person in the school building. In July, the number of patients decreased and fieldwork was carried out. During the fieldwork experience, students recognized that KAYOINO-BA was a place where PCC was realized. This was because the elderly people who participated in the KAYOINO-BA were respected for their autonomy and positivity, and were enthusiastic about their health behavior. Although the number of fieldwork sessions for students were limited due to the COVID-19 pandemic, the practicum was considered to have achieved its objective.

〔Key words〕 COVID-19 pandemic, Comprehensive Practicum, online, Chuo City (Tokyo), PCC

〔要 旨〕

聖路加国際大学4年制コース「総合実習（基礎看護）」（選択必修3単位）は、東京都中央区高齢者福祉課の協力を得て、高齢者「通いの場」にて実習を行っている。「通いの場」は、中央区内に住むひとり暮らしや閉じこもりがちな65歳以上の高齢者を対象とした交流サロンであり、中央区は「通いの場」を運営する団体に補助を出している。本科目は実習目標を、“市民を対象とした「健康への気づきプログラム」の実施を通して、市民の健康ニーズを理解し、PCC (People-centered care) を実現するための看護実践について考えることができる”とし、例年、「通いの場」にて履修学生が健康教育「看護学生による健康ミニ講座」を実施している。2021年度はCOVID-19感染症の蔓延に伴い、6月の実習は主に遠隔実習にて行い、一部、学内実習も取り入れた。感染者数が低下した7月には、学生1名につき1回の「通いの場」でのフィールド実習が可能となった。フィールド実習後、学生は「通いの場は参加者の主体性や積極性が尊重された場であり、参加者は意欲的に健康行動に取り組んでいた。通いの場はPCCが実現されている場である」と「通いの場」を捉えていた。コロナ禍にてフィールドでの実習が制限されたが、学生が学習目標を達成できたことが推察された。

【キーワード】 コロナ禍、総合実習、遠隔実習、東京都中央区、PCC

I. はじめに

2020年のCOVID-19感染症の蔓延により、全世界は想定を超えた対応を迫られた。看護教育においても例外ではなく、COVID-19感染症に対応する医療現場や高齢者施設等での実習が困難となり、代替え実習方法の検討を余儀なくされた。日本看護系大学協議会による「2020年度 COVID-19 に伴う看護学実習への影響調査」¹⁾によると、2020年9月以降に実施予定の実習のうち実習方法の変更を行った実習は83.4%であり、臨地における実習時間の短縮が予定され、全体で約8割が学内実習に、約半数が遠隔実習に変更を行っていると報告されている。聖路加国際大学看護学部4年生の「総合実習（基礎看護）」も同様に、2020年度は遠隔実習（1日のみ学内実習）、2021年度には遠隔実習および学内実習（1日のみフィールド実習）を行った。本稿では、2021年度の「総合実習（基礎看護）」について、学生の学びの内容を含めて報告する。なお、学びの内容の記載（写真掲載含む）については事前に学生の承諾を得ている。

II. 総合実習（基礎看護）

1. 科目概要

「総合実習（基礎看護）」は看護学部4年次の選択必修科目（3単位）であり、4年制コースでは前期の6～7月に配置されている。本学の「総合実習」は、急性期看護や老年看護など複数の看護領域が担当し（計12領域）、3年次の2月に、学生は履修したい「総合実習」の領域を第5希望まで教務課に提出し、教務課による調整を経て「総合実習」の履修領域が決定する。2021年度の4年制コース「総合実習（基礎看護）」は、複数名の学生が履修した。

本科目では実習目標を、“市民を対象とした「健康への気づきプログラム」の実施を通して、市民の健康ニーズを理解し、PCC（People-centered care）を実現するための看護実践について考えることができる”とし、東京都中央区福祉保健部高齢者福祉課高齢者活動支援係の協力を得て、開講時より東京都中央区高齢者「通いの場」にて実習を行っている²⁾。学生は「通いの場」で参加者との交流を通して健康ニーズを把握し、ニーズに基づいたテーマを設定して「健康への気づきプログラム（呼称：看護学生による健康ミニ講座）」を「通いの場」の参加者を対象に実施させていただいている。

2. 通いの場について³⁾

「通いの場」は、ひとり暮らしや閉じこもりがちな65歳以上の高齢者等が身近な地域で交流できるサロンで、「通いの場」を運営する団体は中央区による支援を受けることができる。支援の要件は、「要支援者に相当する高齢者等が参加でき、地域に開かれている」「営利を目的としない」「月2回以上、1回1時間以上決まった場所で行う」「常時2名以上のスタッフで実施、5名以上の参加者が見込まれる」「介護予防につながるプログラム（体操や歌などを複数取り入れる）」の5項目で、会場賃借料などが補助される。東京都中央区では、2021年6月1日現在16カ所で「通いの場」が開催されている。住民運営の「通いの場」は介護保険制度における市町村による事業である介護予防・日常生活支援総合事業として日本各地で行われている⁴⁾。

3. 実習スケジュール

2021年6月は、東京都に緊急事態宣言が発令されており、「通いの場」事業は中止されていた。そのため、例年、「通いの場」にて行う高齢者の健康ニーズの把握を、今年度は文献やその他の資料において行い、「看護学生による健康ミニ講座」は学内にて模擬参加者を対象に実施することとした。実習方法の変更にとまなない、実習到達目標の一部を修正した（表1）。

表1 総合実習（基礎看護）の到達目標

- | |
|--|
| 1) 市民との関わりを想定し、健康ニーズについて検討することができる。 |
| 2) 教員の指導のもと、「健康への気づきプログラム」を実施することができる。 |
| 3) 上記をふまえ、PCCを実現するための看護実践について考えることができる |
| 修正箇所：「市民との関わりを通して」から修正 |

III. 実習の実際

本科目においては、遠隔会議システム Google Meet を用いて遠隔実習を行った。事前に課題を提示し、遠隔実習日には、学生がPowerPointを用いて発表し（1人10分）、意見交換および討議する方式をとった。発表用のPowerPointは事前にクラウド型教育支援システム manaba⁵⁾のプロジェクトに提出することとし、当日の意見交換内容はmanaba上に記録した。発表時の司会と当日のGoogle Meetの設定は学生が輪番で担当し、「カリキュラム2015実習レベル目標」⁶⁾の「チームアプローチ」におけるレベルⅢの実習目標“学生がチームの一員とし

て主体的に役割を果たすことができる”よう配慮した。教員は適時助言を行い、実習目標達成にむけ学生の学びの促進を支援した。

1. 実習開始時の「PCC NURSING」

本科目では実習の初回に、これまでの学習内容を踏まえ「現時点で自身の考える PCC Nursing について」発表する課題を課している。本課題は、実習目標「PCC を実現するための看護実践について考えることができる」に関連し、総合実習直前に、自身の PCC について学生が改めて認識することを意図している。本学では、2011年度改訂カリキュラムより、People-centered care の概念がカリキュラムに導入され⁷⁾、前述の実習レベル目標の「看護観」の項目に、“People-centered care の考えに基づき、対象者の尊厳を守り、真摯に向き合い、誠実に行動できる”として示されている。

学生が発表した、総合実習開始前の PCC NURSING は、

○市民と対等な立場で、価値観を尊重しながら市民の健康について考え、意思決定を共有し、ともに課題を乗り越える（支える）こと

○市民や患者の意思を第一に考えながらも市民や患者が住み慣れた地域や病院において、安心・安全な生活を送れるよう適切にアセスメントし、共に決めた目標を達成することができるようサポートすること

○地域の人とのつながりを得ることで、支えてくれる存在がいると認識してもらうとともに、ニーズを把握し、本人の意欲向上を支えることで、主体的な行動により健康を目指していくための支援

○患者を「一人の人」として捉え、患者の持つ価値観や人生背景を尊重して看護を提供すること

等であった。下線部のように“(対象と)共に”、“(対象者が)主体的に”、“(患者を)尊重して”、など、「看護職としての態度」として重要な文言が確認できた。2021年度総合実習履修の4年生は、昨年度の3年生後期の約半年間の実習をコロナ禍にて行っているが、発表内容はこれまでの個々の実習体験が反映されていた。

2. 健康ニーズの把握と「健康ミニ講座」のテーマ設定

遠隔実習においては、東京都中央区「通いの場」の参加者（70～80歳代の中央区住民）を「健康ミニ講座」受講者として想定し、健康ニーズを資料等から把握することとした。学生は、インターネットで公開されている資料を参照し、中央区の特性（年齢区分構成、高齢化率、単独世帯数など）、中央区保健事業、中央区や他の地域の高齢者のニーズについてまとめ、発表を行った。それぞれの学生によって発表された「健康課題・健康ニーズ」は、健康増進・体力づくり、栄養指導、介護予防、認知機能向上、などであった。各学生の発表後に、テーマに

ついて検討した結果、今年度は2チームに分かれ「認知症予防」と「介護予防」をテーマに「ミニ健康講座」を実施することになった。

3. 健康ミニ講座を効果的に実施するため

健康ミニ講座を効果的に実施するために、健康教育に関連する方法論（理論やモデル）について各自で調べ発表する課題を設定した。学生は、KAP モデル、ヘルスビリーフモデル、計画的行動理論などについての発表し、また、対象である高齢者のヘルスリテラシーを考慮した学習である Gerogogy⁸⁾などの紹介もあった。

さらに、実施方法を学ぶために、WEB で公開されている健康教育プログラム視聴を実習に取り入れた。学生は各自で選択した WEB 上の健康教育を視聴し、講演内容やスライド、講演者の口調などの実施方法を観察し、効果的な方法について考察し、発表した。学生からは、参加者を飽きさせない工夫、参加者の特性を踏まえた言葉を使用することの必要性や、健康への行動変容につながる講義内容とすることの重要性などが発表され、健康教育を実施する際に考慮すべきことを実際の健康講座から学ぶことが出来ていた。

4. 中央区高齢福祉課担当者による支援

本実習では、例年、中央区高齢福祉課の担当者が来校し、「中央区高齢者通いの場支援事業」について学生に講義をしてくださっている。今年度も、事業準備や参加者の概要、実施状況、「通いの場」で実施されている保健師講座の概要等が学生に説明された。講義後には、実施予定の健康ミニ講座のテーマ案について、2つの学生チームがプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションでは、学生が把握した中央区高齢者の特性と健康ニーズ、健康ミニ講座のテーマ、テーマ選定に至った経緯、講座の内容、実施にあたっての留意点などについて、学生が発表した。発表後には、保健師講座担当の看護職や通いの場の担当者から、学生の発表内容に則った具体的な助言をいただいた（写真1）。

なお、本報告については、中央区高齢福祉課担当者から事前に了解を得ている（写真掲載を含む）。



写真1 高齢福祉課担当者にプレゼンテーション

5. 健康への気づきプログラム「健康ミニ講座」の実施

「健康ミニ講座」のテーマ決定後、学生はチームごとに実施にむけて準備を進め、学内にてリハーサルを重ねた。リハーサルは、2チームがそれぞれ「ミニ講座」を実施し、実施後、他方のチームと教員からフィードバックを受ける形式とした。2回の学内リハーサルおよび学生の自己学習を経て実施内容は洗練されていった。

7月中旬に、学内にて、模擬参加者を対象に「看護学生による健康ミニ講座」を実施した（写真2.3）。学生が準備企画した「健康ミニ講座」は、これまでの本実習での学びが随所に活かされていた。参加者が興味・関心をもって主体的に継続して取り組みよう、参加者世代に馴染みのある歌と共に行う運動、認知機能活性化のためのクイズの実施、単独世帯の多い中央区の状況を踏まえ他者との交流を意図したエピソード紹介タイム等の工夫がみられた。30分のミニ講座実施後には、模擬参加者から実施内容についてのフィードバックを受けた。

実施後、学生は、「（模擬参加者との）振り返りの際に早口で聞き取れない箇所があったとの発言が（模擬参加者から）あった。今後は、重要な点を強調するなど、抑揚をつけて話すことやはっきりとゆっくり話すということを留意したい」「個別的な質問に対して専門職として正しく答えられるよう、事前にしっかりと勉強・準備をしていく必要があると考えた」等の気づきを得ていた。



写真2 看護学生による健康ミニ講座：介護予防（学内）



写真3 看護学生による健康ミニ講座：認知症予防（学内）

6. 「通いの場」でのフィールド実習

東京都の緊急事態宣言が6月20日に解除され、「通いの場」事業は7月から再開された。中央区「通いの場」事業支援担当者が「通いの場」事業者の許可をとってくださり、7月に2回「通いの場」にてフィールド実習ができることとなり、履修学生は2チームに分かれて、各1日「通いの場」にて実習を行うことができた。実習実施においては、「事前の健康記録」「当日の健康観察内容」の提出を学生に求め、マスク着用、手指消毒の徹底など十分な感染対策を行った。

7月の2回目の「通いの場」での実習では、前日に学内で行った「看護学生による健康ミニ講座」を実施させていただいた。学内での実施後の振り返りを踏まえ内容を一部変更し、2名の学生が「認知症予防」をテーマに「ミニ講座」を行った（写真4.5）。このミニ講座は、コロナ禍にて不要不急の外出が自粛されている状況に考慮し、模擬旅行を行う形態で行われた。学生は、ツアーガイドとして団体旅行用の旗をもち、ミニ講座を進行した。模擬旅行のツアーバスの中での都道府県クイズ、参加者自身の旅行のエピソードの他者への紹介、参加者がペアになり各地の名産品の写真（値段付き）を選び3000円以



写真4 「通いの場」での健康ミニ講座 その①



写真5 「通いの場」での健康ミニ講座 その②

内の買い物をするなど、脳の活性化と参加者交流促進を意図するプログラムが展開された。

実施後の学生の実習記録には、「実際にプログラムを実施してみて、改めてより他者が理解しやすい表現の仕方や工夫の仕方について考えることの難しさを感じた」、「認知症予防にはこれまでも取り組んできている。今後も重要な課題だね」という（参加者との）お話から、認知機能の向上・認知症予防のニーズは非常に高いことがわかった」等の記載がみられた。また、「通いの場」について、「参加者全員で一つの空間を作っている様子が見られ、参加者の主体性や積極性を尊重した環境が整えられていると考えた」「対象者の主体性や積極性が尊重され、対象者自身が健康意識を高くもち、意欲的に健康行動に取り組んでいるという点において、PCCが実現されているのではないかと考えた」「（通いの場では）主催者だけでなく、参加者もが意見を出し合ってプログラムを進行していた。参加者全員が主体的に参加することが出来ており、健康行動を意欲的に取ることが出来ていたと考える」と考察されていた。

7. 実習まとめの発表

本実習の最終日に、学生ごとにまとめの発表を行った。学生は本実習のこれまでの内容を振り返りつつ、自らが実習にて学んだ内容を、実習目標「PCCを実現するための看護実践」等を踏まえて発表した。

学生からは、

- 常に相手目線で考えること、行動変容や望ましい生活のために、理論を効果的に用いていくことなどが、市民に主体的な行動につながっていく
- 対象者の主体性（特徴、考え・価値観）を尊重した「伝え方の工夫、主体的な行動を促す支援」、「市民と同じ目線に立って考えること」、「共に歩む姿勢（繰り返し考え、学び、共に課題を乗り越える）」が重要
- 「（対象の）ニーズの把握」「効果的な方法の活用」「繰り返しの熟考」の視点の重要性に気づいた
- 対象の特性や理論を踏まえ、興味・関心を引く（プログラム）内容にすることにより参加者の興味や関心が沸き主体的に学ぶことができ、それがPCCにつながる

などの学びが発表された。

“理論を効果的に用いる”，“対象の特性や理論をふまえる”，“伝え方を工夫する”，“繰り返し考える”という記述は、今回の「健康ミニ講座」実施という実習体験によって学生にもたらされた新たな視点であると考えられた。今年度の実習も昨年度同様、COVID-19感染症の蔓延のためフィールド実習の機会が制限されたが、本科目の実習目標「PCCを実現するための看護実践について考えること」を学生が達成できたと捉えることができた。

Ⅲ. おわりに

令和2年の新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行により、看護系大学で行われる臨地実習の実施が困難な状況となった⁹⁾。他大学では臨地実習が叶わなかった際に、地域住民の協力といった資源活用が行われていた、と報告されているが¹⁰⁾、本学も同様に地域住民である中央区「通いの場」の協力を得て、フィールド実習を行うことが出来た。

2021年10月19日の日本の新型コロナウイルス感染者数は372人と報告され¹¹⁾、感染者数は減少傾向であるが、「第6波」等新たな感染拡大が懸念されている。看護教育においても、より効果的な代替実習方法の構築にむけた取り組みが続いている。本科目も、どのような状況であっても、学生の学びが担保されるよう実習方法を今後も探究していきたいと考えている。

謝 辞

2021年度もいつもと同じように学生を暖かく受け入れてくださった「通いの場」の皆様、コロナ対応にてご多忙の中、実習に協力してくださった中央区高齢者活動支援係の皆様、心より御礼申し上げます。学びの内容掲載を承諾してくれた学生さん、ありがとうございました。本科目を臨時助教として共に担ってくださった直井久枝さん、いつも暖かく専門のご指導いただき感謝いたします（複数実習科目担当しつつの実習運営は直井さんのお力添えなくして成立いたしませんでした）。

引用文献

- 1) 日本看護系大学協議会編集、日本看護系大学協議会編集看護学教育質向上委員会、2020年度COVID-19に伴う看護学実習への影響調査A調査・B調査報告書。p2-3 [Internet]. <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/covid-19cyouusaAB.pdf> [参照 2021-10-18]
- 2) 高橋恵子、佐居由美、縄秀志、People-Centered Careを基盤とした学部4年生の総合実習報告：自治体との連携による「高齢者通いの場」支援事業での新たな取り組み、聖路加国際大学紀要、2019；5：100-4.
- 3) 東京都中央区ホームページ、高齢者通いの場支援事業のご案内 [Internet]. <https://www.city.chuo.lg.jp/smiph/kenko/gokoreinokata/ikigai/kayoinoba.html> [参照 2021-10-18]
- 4) 厚生労働省老健局振興課、介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方 [Internet]. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000192996.pdf> [参照 2021-10-18]
- 5) クラウド型教育支援サービス「manaba」[Internet].

- <https://manaba.jp/> [参照 2021-10-18]
- 6) 2021年度聖路加国際大学実習・演習ハンドブック.
東京：聖路加国際大学；2021. p.3.
- 7) 麻原きよみ，有森直子，佐居由美他. 聖路加看護大学2011年度改訂カリキュラム. 聖路加看護大学紀要. 2012；38：52-7.
- 8) 中山和弘. 高齢者のヘルスリテラシーとジェロロジー [Internet]. <https://www.healthliteracy.jp/comm/aged.html> [参照 2021-10-18]
- 9) 文部科学省. 新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書（令和3年（2021年）6月8日）[Internet]. はじめに；[参照 2021-10-18]; p.1. https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_igaku-000015851_0.pdf
- 10) 文部科学省. 新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書（令和3年（2021年）6月8日）[Internet]. 教育力の向上に関する課題；[参照 2021-10-18]; p.6. https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_igaku-000015851_0.pdf
- 11) NHK. 新型コロナウイルス特設サイト. 都道府県別の感染者数 [Internet]. <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/> [参照 2021-10-20]